

主要産地における令和5年産水稻の生育状況等について 第12報 (令和5年8月1日取り纏め)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (令和5年8月2日)

道府県	生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋)		技術・防除・気象情報関連資料 (自治体、気象台等公表資料の抜粋)	(参考)
	区分	生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋) 平年、指標等に対する遅速等		
北海道	(生育)	<p>【生育状況 (7月15日現在)】</p> <p>(全道) 生育は平年よりやや早く進んでいる。(北海道農政局 7月21日付)</p> <p>(空知) 生育はややく早く進んでいる。(空知総合振興局 7月21日付)</p> <p>(石狩) 生育はややく早く進んでいる。(石狩振興局 7月21日付)</p> <p>(後志) 生育は早4日。(後志総合振興局 7月21日付)</p> <p>(胆振) 7月上旬が高温で乾燥したため生育が遅い。生育は平年より早い。(胆振総合振興局 7月21日付)</p> <p>(日高) 気温が高く推移し、生育は順調である。(日高振興局 7月21日付)</p> <p>(釧路) 生育は平年並に進んでいる。(釧路総合振興局 7月21日付)</p> <p>(十勝) 生育は平年より早く推移。(十勝振興局 7月21日付)</p> <p>(上川) 生育は平年並である。(上川総合振興局 7月21日付)</p> <p>(室蘭) 生育は平年よりやや早く進んでいる。(室蘭振興局 7月21日付)</p> <p>(オホーツク) 生育は平年よりやや早く進んでいる。(オホーツク総合振興局 7月21日付)</p>	<p>(全国) 春からエルニーニョ現象が続いているとみられる。今後、秋にかけてエルニーニョ現象が弱く可能性が高い(90%)。(気象庁 7月10日付)</p> <p>【向こう1か月の天候の見通し 7月29日～8月28日】 北海道地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 北海道地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は平年並が多い見込み。(気象庁札幌管区気象台)</p> <p>北海道地方は8月6日頃からかなりの高温。(札幌管区気象台)</p> <p>向こう1か月いもち病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<p>令和5年度の品種構成の概観</p> <p>・「なつぽしり」及び「ゆめぴりか」を中心とする品種構成となっており、主産品種に大きな変化はみられない。(農林水産省 令和5年3月15日)</p> <p>(出典資料は以下同じ)</p>
青森	(生育)	<p>【生育ステージ調査】(出穂期)</p> <p>・「つがるロマン」及び「青天の霹靂」は7月30日、「まっしぐら」は7月28日。</p> <p>・「つがるロマン」及び「まっしぐら」は平年より4日早く、「青天の霹靂」は3日早かった。</p> <p>・「はれわたり」の出穂期は7月29日であった。</p> <p>(地域) 青森県産米技術センター農林総合研究所 7月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月29日～8月28日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は平年並が多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>東北地方は8月6日頃からかなりの高温。(仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月いもち病、ニカメイガ、斑点米カメムシ、鉄枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「まっしぐら」及び「つがるロマン」を中心とする品種構成となっている。</p>
岩手	(生育)	<p>【水稻の生育状況と出穂期の予測「ひとめぼれ」「あきたこまち」「霞河のしずく」「いわてっこ】</p> <p>・7月18日頃から4日までは、日平均気温は平年を上回り、日照時間は4日を除いて平年並から平年を上回った。</p> <p>・農業改良普及センター生育診断予備期の幼穂形成期は、単全体で7月9日頃(平年並-2)となっており、本報の作成時点(7月21日)の予測では、出穂期は平年より2日早い7月31日頃と見込まれる。</p> <p>(岩手県 7月27日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月29日～8月28日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は平年並が多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>東北地方は8月6日頃からかなりの高温。(仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月いもち病、ニカメイガ、斑点米カメムシ、鉄枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。農オジジナル品種である「霞河のしずく」が、新冷性、耐病性に優れていることから増加傾向となっている。</p>
宮城	(生育)	<p>【7月27日現在】</p> <p>・水稲作付見込面積の21.8%の水田が出穂期に達している。県全体の出穂期は、7月26日で平年より3日早い。(宮城県 7月28日付)</p> <p>(互) 管内の出穂期は7月28日(平年より5日早い)。(互) 農業改良普及センター 8月1日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月29日～8月28日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は平年並が多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>東北地方は8月6日頃からかなりの高温。(仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月いもち病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。</p>
秋田	(生育)	<p>(雄 雄) 7月25日現在の水稲定植(あきたこまち8か所平均)の生育は、穂ばらみ期を迎え、草丈はややく長いものの、茎数はやや少なく、葉色は平年並となっている。出穂期は平年よりやや早まるものと見込まれる。(7月28日付)</p> <p>(北秋田) 7月25日現在の水稲定植調査結果(9地点平均)では、草丈が82.3cm(平年比110%)、茎数が44本/m²(同88%)、葉色(SPAD502)が40.1(同107%)、葉数が12.6葉(平年並±0.0葉)となった。出穂期の予測(7月25日以降、平年値で計算)では、8月15日移穂は7月28日(平年並+2日)、8月25日移穂は7月28日(同3日)となっている。(7月28日付)</p> <p>(仙 仙) 7月25日定植調査結果では、草丈が長い、茎数は少なく、葉色は濃くなっている。生育は順調に推移し、定植の幼穂形成期と茎数及び葉数は多くの地域で-2.3日程度早かったと見られる。(7月28日付)</p> <p>(山 山) 本 水の多い日が続く、出穂直前のほ場が多くみられる。(7月28日付)</p> <p>(秋田県農政課)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月29日～8月28日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は平年並が多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>東北地方は8月6日頃からかなりの高温。(仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月いもち病、ニカメイガ、斑点米カメムシ、鉄枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。</p>
山形	(生育)	<p>【7月20日現在】</p> <p>・「はえぬき」の生育は、平年と比較して、草丈は並み、茎数はやや少なく、葉数及び葉色は並みとなっている。</p> <p>・「つや姫」の生育は、平年と比較して、草丈はややく長く、茎数及び葉数は並み、葉色はややく濃くなっている。</p> <p>・「雪若丸」の生育は、平年と比較して、草丈はややく長く、茎数、葉数、葉色は並みとなっている。</p> <p>・出穂期は、やや遅い。山形県 7月25日付)</p> <p>(農 上) 【生育診断の出穂予測 (7月20日調査)】</p> <p>・出穂期は概ね平年並の見込み。</p> <p>・「あきたこまち」(農上和向) 8月3日、「はえぬき」(新庄市泉田) 8月6日、「雪若丸」(新庄市泉田) 8月7日、「つや姫」(舟形町向田) 8月10日。</p> <p>(農上総合支庁農業技術普及課 7月27日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月29日～8月28日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は平年並が多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>東北地方は8月6日頃からかなりの高温。(仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月いもち病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「はえぬき」及び「つや姫」を中心とする品種構成となっている。新冷性「雪若丸」は増加傾向にある。</p>
福島	(生育)	<p>(農業総合センターの作柄解析試験における)7月4日現在の生育概況)</p> <p>・全ての調査場所で品種(「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」、「天のつぶ」)ともに、草丈が平年より長く、茎数が平年並からやや多く、主穂葉数が平年より0.1~0.4枚多く、葉色が平年並。</p> <p>(福島県農林水産部農業振興課 7月10日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月29日～8月28日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は平年並が多い見込み。(気象庁仙台管区気象台)</p> <p>東北地方は8月6日頃からかなりの高温。(仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月いもち病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。近年、収量水準の高い「天のつぶ」が増加しており、新冷性への転換が増加していることと出率はややく低下したものの、まだ増加が見込まれる。</p>
茨城	(生育)	<p>【7月20日現在、水戸市】</p> <p>(5月1日移穂)</p> <p>・出穂期は、「あきたこまち」が7月13日で平年より3日早く、「ふくまるSL」が7月16日で平年より2日早く、「コシヒカリ」が7月23日で平年より4日早かった。</p> <p>(5月10日移穂) 「コシヒカリ」7月20日における主穂幼穂長は160.3mmで、幼穂長から予測される出穂期は7月29日である。</p> <p>(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 7月25日付)</p> <p>(生育) 【7月18日現在、龍ヶ崎市】対平年遅速</p> <p>(4月27日移穂)</p> <p>・「あきたこまち」1日早い(出穂期)、「ふくまるSL」3日早い(出穂期)、「コシヒカリ」6日早い(出穂期)。</p> <p>(5月8日移穂) 「コシヒカリ」平年並</p> <p>(茨城県農業総合センター農業研究雨水田利用研究室 7月19日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月29日～8月28日】 関東甲信越地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込み。(気象庁)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 関東甲信越地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多い見込み。(気象庁)</p> <p>関東甲信越地方は8月6日頃からかなりの高温。(気象庁)</p> <p>向こう1か月いもち病、ニカメイガ、結実枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。近年、多様な多収米への作付け移行が進んでいる。</p>
栃木	(生育)	<p>【生育概況】(7月20日調査)</p> <p>・草丈は出穂している影響もあるが前年よりも高い。</p> <p>・主穂コシヒカリの茎数は多いところと少ないところとが分かれるが全体的にはやや少ない。</p> <p>・主穂とちぎの茎数はやや少ない。</p> <p>・葉色は前年並～やや濃く、生育量(生育診断値)は前年を下回っている。</p> <p>・各地とも出穂が進んでいる。農試では1988年以来最も早い出穂期となる見込み</p> <p>【コシヒカリ：前年比】草丈105% 茎数98% 葉色±0.0 【ちぎの茎：前年比】草丈101% 茎数95% 葉色-0.5 【普通穂とちぎの茎】5月播 草丈100% 茎数104% 葉数+0.4 葉色-1.2 6月播 草丈 83% 茎数102% 葉数+0.6 葉色+0.3</p> <p>(栃木県農政課経営技術課 7月21日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月29日～8月28日】 関東甲信越地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込み。(気象庁)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 関東甲信越地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多い見込み。(気象庁)</p> <p>関東甲信越地方は8月6日頃からかなりの高温。(気象庁)</p> <p>向こう1か月いもち病、ニカメイガ、結実枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「ちぎの茎」が増加傾向にある。</p>

<p>千 葉</p> <p>(生育状況等)</p> <p>・7月は平年より気温が高く、日照時間が長い状況で推移した。このため、幼穂形成期から出穂期までの日数が短くなり、「ふさおとめ」「ふさこがね」は平年より早く、「コシヒカリ」「新すけ」は約4日早く出穂期を迎えている。なお、「ふさおとめ」は穂数がやや少なめで穂長がやや長めとなっている。いづれの品種も、出穂期の高さは平年並からやや高くなっている。</p> <p>・成熟期は4月20日補欠の「ふさおとめ」が9月8日から、「ふさこがね」は8月14日から、「コシヒカリ」「新すけ」は28月20日から予測される。なお、落葉しても葉色が低下したり水不足した場合は成熟期が早まる可能性がある。</p> <p>(千葉県 7月26日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月29日～8月28日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁)</p> <p>関東甲信地方は8月6日頃からかなりの高温。 (気象庁)</p> <p>向こう1か月ニカメイガ、斑点カメムシの発生が多いと予想される。 (農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」「ふさこがね」及び「ふさおとめ」を中心とする品種構成で、近年「コシヒカリ」が増加し、収量水準の高い「ゆきん千両」「つきあり」及び「みずほの輝き」が増加傾向にある。また、新米品種「新すけ」(晩生種)の作付拡大を推進している。</p>
<p>新 潟</p> <p>(生育)</p> <p>【7月31日現在の県内全域の生育状況】 ・「コシヒカリ」の生育は、県全体では指標値(生育のめやす)に比べ、草丈は「長い」、茎数は「並」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「やや濃い」状況で、葉色は前期調査からさらに低下し、地域・品種によっては非常に濃くなっている。 ・「新すけ」の生育は、指標値に比べ、草丈は「やや早い」、茎数は「並」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「やや濃い」状況で、地域差が大きくなっている。(新潟県 8月1日付)</p> <p>(新潟県 8月1日付)</p> <p>(新潟県 8月1日付)</p> <p>・草丈: 96cm (指標値113%、長)、茎数: 350本/m² (105%、やや少)、葉色: 33.6 (葉緑率計) (指標値+0.1)、並 葉数: 13.1葉 (同+0.3、やや早) (新潟県農業普及指導センター 7月31日付)</p> <p>(新潟県 8月1日付)</p> <p>・草丈「コシヒカリ」生育は、草丈「やや長」、茎数、葉数「並」、葉色「やや濃」。(新潟県農業普及指導センター 7月31日付)</p> <p>(三宅 県)</p> <p>・草丈は長く、茎数はやや少ない、葉数は並、葉色は濃。(地域差大きい)。出穂期は8月1日頃と予想される。(5月連休日補欠の場合) (三宅県農業普及指導センター 7月31日付)</p> <p>(長岡 県)</p> <p>・草丈: 90cm (指標値108%、やや長い)、茎数: 379本/m² (指標値109%、やや多い)、葉数: 13.3葉 (指標値+0.5葉、やや早い) 葉色: 30.8 (SPAD) (指標値-1.8、やや濃い)</p> <p>(魚沼 県)</p> <p>・草丈105% (やや長い)、茎数109% (やや多い)、葉数13.4 (0.2)並、葉色 (SPAD) -1.0 (やや濃い)。(魚沼県農業普及指導センター 7月31日付)</p> <p>(糸魚川 県)</p> <p>・草丈、茎、葉数、やや少、葉数: やや早、葉色: やや濃。(糸魚川県農業普及指導センター 7月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月29日～8月28日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>北陸地方は8月6日頃からかなりの高温。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月ニカメイガ、斑点カメムシの発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「こいぬき」を中心とする品種構成で、近年「コシヒカリ」が増加し、収量水準の高い「ゆきん千両」「つきあり」及び「みずほの輝き」が増加傾向にある。また、新米品種「新すけ」(晩生種)の作付拡大を推進している。</p>
<p>富 山</p> <p>(生育状況)</p> <p>・「コシヒカリ」 平年に比べ、草丈、葉色、葉数は並、茎数はやや少なくなっている。幼穂形成期は、平年に比べ1日早い7月10日となった。今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年より1日早い7月31日頃と見込まれる。</p> <p>・「てんたかく」 5月3日移植の「てんたかく」の出穂期は、近年より1日早い7月15日となった。今後、平年並の気温で推移した場合、成熟期は8月19日頃と見込まれる。</p> <p>・「てんこもり」 平年に比べ、草丈、葉色、葉数は並、茎数は並で推移している。幼穂形成期は、平年に比べ1日遅い7月13日となった。今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年に比べ1日遅い9月4日頃と見込まれる。</p> <p>・「富富富」 近年に比べ、草丈、葉数、葉色は並であった。幼穂形成期は、近年より1日早い7月12日となった。今後、気温が平年並に推移すると、出穂期は近年より1日早い9月3日頃と見込まれる。</p> <p>(富山県 7月18日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月29日～8月28日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>北陸地方は8月6日頃からかなりの高温。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月ニカメイガ、斑点カメムシの発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっているものの、近年高温並でも品質安定している「てんたかく」及び「てんこもり」等のトップブランドに位置づけられている「富富富」が増加傾向にある。</p>
<p>石 川</p> <p>【6月8日現在】</p> <p>(草丈)</p> <p>・「コシヒカリ」 平年比95～134% (県平均107%、加賀: 104%、能登: 110%) 平年並～長く、前年に比べてやや長い。 ・「ゆめぴりけ」 平年比90～121% (県平均108%、加賀: 105%、能登: 112%) 平年並～やや長い～長く、前年に比べて長い。 ・「ひゃくまん穀」 近年比89%～129% (県平均108%、加賀: 112%、能登: 103%) 近年並～長く、前年に比べてやや長い～長い。</p> <p>(茎数)</p> <p>・「コシヒカリ」 平年比76～159% (県平均104%、加賀: 105%、能登101%) 平年並及び前年並。 ・「ゆめぴりけ」 平年比64～168% (県平均111%、加賀: 104%、能登120%) 平年並及び前年に比べて並～多い。 ・「ひゃくまん穀」 近年比72～189% (県平均114%、加賀: 105%、能登129%) 近年及び前年に比べて並～多い。</p> <p>(葉数)</p> <p>・葉齢期間は、「コシヒカリ」は平年及び前年並、「ゆめぴりけ」も平年及び前年並。「ひゃくまん穀」は近年及び前年と比べ2日程度早い。</p> <p>(石川県農業総合センター農業試験場 6月9日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月29日～8月28日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>北陸地方は8月6日頃からかなりの高温。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月ニカメイガ、斑点カメムシの発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ゆめぴりけ」を中心とする品種構成であるが、新米品種である「ひゃくまん穀」が増加傾向にある。</p>
<p>福 井</p> <p>【7月12日調査】</p> <p>・「ハナエネゼン」 ・出穂期は平年より3日早く、早い地域で7月11日頃、県全体では7月12～16日となる見込み。</p> <p>「いちほまれ」コシヒカリ」</p> <p>・農業試験場の移植後の幼穂形成期は平年並となった。</p> <p>(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月14日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月29日～8月28日】 北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>北陸地方は8月6日頃からかなりの高温。 (気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月ニカメイガ、斑点カメムシの発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ハナエネゼン」を中心とする品種構成であるが、新米品種である「いちほまれ」が増加傾向にある。</p>
<p>長 野</p> <p>(生育)</p> <p>【標高1017m原村の原村試験地における水稲生育状況 移植後50日(きらりん、ゆめしなの、あきたこまち)】</p> <p>・移植後50日の生育引き続き伸び続け前進傾向である。「きらりん」では、止ま(第11～12節)抽出が終了している。幼穂形成期は「きらりん」で平年より3日早く、「ゆめしなの」、「あきたこまち」で平年並となっている。</p> <p>(長野県農業試験場 7月18日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月29日～8月28日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量は、ほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込み。 (気象庁)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁)</p> <p>関東甲信地方は8月6日頃からかなりの高温。 (気象庁)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成である。近年、高温多湿性に優れた「みずかがみ」の作付が推進されている。</p>
<p>滋 賀</p> <p>【水稲作況調査】</p> <p>・「みずかがみ」「コシヒカリ」とともに草丈は平年並、茎数は少ない(7月10日)。</p> <p>・葉色は、「みずかがみ」は平年並、「コシヒカリ」は平年より深く、主穂数は「みずかがみ」は平年より0.2枚多く、「コシヒカリ」は0.3枚少ない(7月20日)。</p> <p>・出穂期は、「みずかがみ」では平年より1日遅い7月23日、「コシヒカリ」は平年と同じ7月27日であった。</p> <p>(滋賀県農業技術普及センター 7月27日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月29日～8月28日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁大阪府気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁大阪府気象台)</p> <p>近畿地方は8月8日頃からかなりの高温。 (気象庁大阪府気象台)</p> <p>向こう1か月の発生が多いと予想される。 (農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」、「みずかがみ」及び「日本晴」を中心とする品種構成である。近年、高温多湿性に優れた「みずかがみ」の作付が推進されている。</p>
<p>兵 庫</p> <p>【6月28日時点】</p> <p>(県 北)</p> <p>・「コシヒカリ」の草丈は平年並、茎数はかなり多く、葉数の進展はやや早い。遅穂では、草丈は平年並、茎数はかなり多く、葉数の進展はやや早い。</p> <p>(兵庫県 7月5日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月29日～8月28日】 近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁大阪府気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁大阪府気象台)</p> <p>近畿地方は8月8日頃からかなりの高温。 (気象庁大阪府気象台)</p> <p>向こう1か月の発生が多いと予想される。 (農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」「キヌヒカリ」及び「山陽錦」を中心とする品種構成である。「きぬむすめ」の作付拡大を推進している。</p>
<p>岡 山</p> <p>(生育)</p> <p>【生育状況】</p> <p>・早生品種は、出穂が平年より早く、茎数は平年並～少ない。</p> <p>・このまま高温傾向が続くと、早生品種の成熟が早まると予想される。</p> <p>・中生～晩生品種は、分けつ盛期～幼穂形成期で、茎数は概ね平年並である。</p> <p>(岡山県農林水産総合センター 7月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月29日～8月28日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>中国地方は8月8日頃からかなりの高温。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>向こう1か月の発生が多いと予想される。 (農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「アケボノ」、「きむむすめ」、「コシヒカリ」「あきたこまち」及び「ヒノヒカリ」及び「きむむすめ」を中心とする品種構成である。近年、「きむむすめ」の作付拡大が推進されている。</p>
<p>広 島</p> <p>(生育)</p> <p>【7月21日調査】広島県総合技術研究所農業技術センター農場(東広島市八本松町)</p> <p>()内は平年値</p> <p>・「コシヒカリ」(密植) 草丈: 84.4 (85.1) cm、茎数: 539 (435) 本/m²、葉色 (SPAD値) 38.2 (35.2)、葉齢11.7 (12.2)</p> <p>・「あきたこまち」(密植) 草丈: 71.9 (73.6) cm、茎数: 579 (468) 本/m²、葉色 (SPAD値) 36.5 (34.2)、葉齢12.5 (12.5)</p> <p>・「ヒノヒカリ」(密植) 草丈: 71.4 (73.1) cm、茎数: 541 (457) 本/m²、葉色 (SPAD値) 36.0 (32.5)、葉齢10.9 (11.8)</p> <p>・「ヒノの予感」(普通植) 草丈: 76.7cm、茎数: 367本/m²、葉色 (SPAD値) 34.0、葉齢12.6</p> <p>・「あきたこまち」(普通植) 草丈: 72.6cm、茎数: 468本/m²、葉色 (SPAD値) 40.8、葉齢12.5</p> <p>(広島県総合技術研究所農業技術センター 7月25日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 7月29日～8月28日】 中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並が多い見込み。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>中国地方は8月8日頃からかなりの高温。 (気象庁広島地方気象台)</p> <p>向こう1か月の発生が多いと予想される。 (農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」、「あきたこまち」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。</p>

(生育状況等)			
愛 媛	<p>【2023年度「ひめの涙」の生育状況（7月24日現在）】</p> <p>(5月22日移植 7月10日調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草丈(cm) 61.4、茎数(本/m) 362、一株あたり茎数(本/株) 23.9、葉色(SPAD値) 32.8 <p>(6月1日移植 7月21日調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草丈(cm) 66.4、茎数(本/m) 320、一株あたり茎数(本/株) 21.1、葉色(SPAD値) 32.1 <p>(6月14日移植 7月24日調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草丈(cm) 58.4、茎数(本/m) 374、一株あたり茎数(本/株) 24.7、葉色(SPAD値) 32.1 <p>(愛媛県農林水産研究所 7月28日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の要通し 7月29日～8月28日】</p> <p>四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の要通し 8月～10月】</p> <p>四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多い見込み。(気象庁高松地方気象台)</p> <p>四国地方は8月8日頃からかなりの高温。(気象庁高松地方気象台)</p> <p>向こう1か月の7月27日03時45分、斑点米カメムシ、稲葉枯病、いもち病、ごま葉枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」「あきたこまち」及び「にこまる」を中心とする品種構成は大きな変化はない。「ヒノヒカリ」から「にこまる」への品種変更が定着してきている。
高 知	<p>【作柄の良否】(見込み) (7月15日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(早期栽培) やや不良。(農林水産省 7月31日付) <p>(生育)</p>	<p>【向こう1か月の天候の要通し 7月29日～8月28日】</p> <p>九州地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の要通し 8月～10月】</p> <p>四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多い見込み。(気象庁高松地方気象台)</p> <p>四国地方は8月8日頃からかなりの高温。(気象庁高松地方気象台)</p> <p>向こう1か月の7月27日03時45分、斑点米カメムシ、稲葉枯病、いもち病、ごま葉枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。
福 岡	<p>【7月14日調査】(農林業総合試験場における生育概況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「夢つくし」の草丈は、平年より11%長く、茎数が23%少なかった。「元気づくし」および「ヒノヒカリ」では、平年と比べ、草丈は平年並～15%長く、茎数は16～43%少なかった。「実りつくし」では、前8年と比べ、草丈は3%長く、茎数は38%少なかった。 ・各品種とも主稈葉数は平年並～平年より0.6葉ほど少なく、生育は平年並～やや遅れている。 <p>(福岡県・福岡県米品質改善協会 7月19日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の要通し 7月29日～8月28日】</p> <p>九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の要通し 8月～10月】</p> <p>九州北部地方の3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多い見込み。(気象庁福岡管区気象台)</p> <p>九州北部地方は8月8日頃からかなりの高温。(気象庁福岡管区気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「夢つくし」及び「元気づくし」を中心とする品種構成であるが、「元気づくし」が増傾向となっている。併せて「実りつくし」の拡大を推奨している。
熊 本		<p>【向こう1か月の天候の要通し 7月29日～8月28日】</p> <p>九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の要通し 8月～10月】</p> <p>九州北部地方の3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並が多い見込み。(気象庁福岡管区気象台)</p> <p>九州北部地方は8月8日頃からかなりの高温。(気象庁福岡管区気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「森のくまさん」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成である。「くまさんの穂き」はリーディング品種として取組いが年々拡大している。
宮 崎	<p>【作柄の良否】(見込み) (7月15日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(早期栽培) 平年並。(農林水産省 7月31日付) <p>(生育) 【作物の生育状況(7月中旬)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通期水稲は分けつ期。(宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 7月26日付) 	<p>【向こう1か月の天候の要通し 7月29日～8月28日】</p> <p>九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の要通し 8月～10月】</p> <p>九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁鹿児島地方気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「みぎ388」への作付誘導が進められている。
鹿 児 島	<p>【作柄の良否】(見込み) (7月15日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(早期栽培) やや不良。(農林水産省 7月31日付) 	<p>【向こう1か月の天候の要通し 7月29日～8月28日】</p> <p>九州南部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の要通し 8月～10月】</p> <p>九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁鹿児島地方気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・早期栽培は「コシヒカリ」普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。早期栽培では、収量水準の高い「なつほのか」への移行が急速に進んでいる。

注1：熊本及び地方自治体、出先機関等がホームページで公表している資料を本表参照情報で取り纏め。
注2：生育状況等(最終作等公表資料の抜粋)については令和6年8月1日 17時時点での取り纏め。
注3：実勢調査は赤字で示した。

引用資料:

農作物の生育状況 7月1日現在(北海道農政部 7月21日)、
農作物生育状況 7月1日現在(北海道空知総合振興局 7月21日)、
農作物生育状況 7月1日現在(北海道石狩振興局 7月21日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道後志総合振興局 7月21日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道胆振総合振興局 7月21日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道日高振興局 7月21日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道渡島総合振興局 7月21日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道檜山振興局 7月21日)、
農作物の生育状況 7月1日現在(北海道上川総合振興局 7月21日)、
農作物生育状況調査の概要 7月1日現在(北海道留萌振興局 7月21日)、
農作物の生育と農作業の進捗状況 7月1日現在(北海道オホーツク総合振興局 7月21日)、
水稲作況調査(生育ステージ)(地独)青森県産業技術センター農林総合研究所 7月31日)、
農作物技術情報第5号水稲(岩手県 7月27日)、
令和5年度水稲の出穂状況について(7月27日現在)(宮城県みやぎ米推進課生産販売班 7月28日)、
令和5年稲作情報臨時号(宮城県亘理農業改良普及センター 7月28日)、
生育状況報告(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」<http://www.e-komachi.jp/> 8月1日閲覧)、
当面の技術対策(8月)(山形県農林水産部 7月25日)、
稲作だより第10号「病害虫防除編」(最上総合支庁農業技術普及課 7月27日)、
主要な農作物の生育情報令和5年度第4号(福島県農林水産部農業振興課 7月10日)、
農研速報(茨城県農業総合センター 農業研究所作物研究室 7月25日)、
農研速報(茨城県農業総合センター 農業研究所水田利用研究室 7月19日)、
水稲生育診断速報No.5(栃木県農政部経営技術課 7月21日)、
水稲の生育と当面の対策第5報(千葉県農林水産部 7月26日)、
水稲の生育と今後の管理対策(高温対策臨時号)(新潟県農林水産部 8月1日)、
令和5年度新発田地域水稲生育速報No.7(新発田農業普及指導センター 7月31日)、
稲作速報No.8(新潟県農業普及指導センター 7月31日)、
FAX稲作情報No.10(三条農業普及指導センター 7月31日)、
水稲生育速報(長岡農業普及指導センター 7月31日)、
コンヒカリ生育情報第8号(魚沼農業普及指導センター 7月31日)、
令和5年度糸魚川売れる米づくりコンヒカリ生育情報No.7(糸魚川農業普及指導センター 7月31日)、
TACS情報第8号(富山県 7月18日)、
令和5年度水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-3号)(石川県農林総合研究センター 6月9日)、
稲作情報No.11(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月14日)、
水稲高標高試験圃の生育状況(令和5年)(長野県農業試験場 7月19日)、
令和5年度水稲生育診断情報No.4(滋賀県農業技術振興センター 7月27日)、
令和5年度兵庫県農業気象技術情報No.3(7月情報)(兵庫県農林水産部 7月5日)、
水稲の高温による品質低下防止対策について(岡山県農林水産総合センター、岡山県農業気象技術担当者会議 7月31日)、
水稲生育状況(令和5年7月21日現在)(広島県立総合技術研究所農業技術センター 7月25日)、
2023年産「ひめの穂」の生育状況(7月24日現在)(愛媛県農林水産研究所 7月28日)、
福岡県米麦大豆生産改善速報第2号(福岡県、福岡県米麦品質改善協会 7月19日)、
令和5年度病害虫発生予報第4号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 7月26日)、

北海道地方こう1か月の天候の見通し(7月27日札幌管区気象台)、東北地方こう1か月の天候の見通し(7月27日仙台管区気象台)、関東甲信地方こう1か月の天候の見通し(7月27日気象庁)、
北陸地方こう1か月の天候の見通し(7月27日新潟地方気象台)、近畿地方こう1か月の天候の見通し(7月27日大阪管区気象台)、中国地方こう1か月の天候の見通し(7月27日広島地方気象台)、
四国地方こう1か月の天候の見通し(7月27日高松地方気象台)、九州北部地方こう1か月の天候の見通し(7月27日福岡管区気象台)、
九州南部・奄美地方こう1か月の天候の見通し(7月27日鹿児島地方気象台)、

北海道地方こう3か月の天候の見通し(7月25日札幌管区気象台)、東北地方こう3か月の天候の見通し(7月25日仙台管区気象台)、関東甲信地方こう3か月の天候の見通し(7月25日気象庁)、
北陸地方こう3か月の天候の見通し(7月25日新潟地方気象台)、近畿地方こう3か月の天候の見通し(7月25日大阪管区気象台)、中国地方こう3か月の天候の見通し(7月25日広島地方気象台)、
四国地方こう3か月の天候の見通し(7月25日高松地方気象台)、九州北部地方こう3か月の天候の見通し(7月25日福岡管区気象台)、
九州南部・奄美地方こう3か月の天候の見通し(7月25日鹿児島地方気象台)、

早期天候情報(7月31日14時30分 気象庁)、
エルニーニョ監視速報(No.370)について(気象庁 7月10日)、

令和5年度水稲の西南暖地における早期栽培等の作柄概況(7月15日現在)(農林水産省 7月31日)
令和5年度病害虫発生予報第5号(水稲特集)(農林水産省 7月26日)、
令和5年度水稲の10a当たり平年収量に係る生産事情(都道府県別)(農林水産省 3月15日)